

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

群大病院が目指す患者参加型医療

～インフォームド・コンセントとカルテ閲覧～

医療の質・安全管理部長 小松 康宏



患者参加型医療が患者さんにも必要なわけ

群大病院では、患者参加型医療を推進しています。患者参加型医療とは、患者さんが医療者と協働で医療の質と安全を向上させることです。治療法の決定やセルフケアなど、自らの治療に積極的に参加することから、病院運営や医療政策に助言することまで広い範囲を含みます。チーム医療の重要なメンバーのひとりである患者さんが、自分の病状を良く知り、治療方針の決定に積極的に加わることで、治療の効果も高まります。今回はその第一歩となる、インフォームド・コンセントとカルテの閲覧についてお話をします。

インフォームド・コンセントとは

医療が進歩した結果、かつては「手術の対象外」であった病気でも手術をうけられるようになったり、薬物療法、放射線療法、手術療法など治療の選択肢が広がってきました。一方で、医療行為は不確実であり、過失がなくても重大な副作用や併発症が起こる事があります。最善の治療法を決めるには、治療の利点と危険性を十分に理解することが欠かせません。インフォームド・コンセントは、医療者と患者さんが話し合っ、最終的な判断を下し、患者さんが医療行為に許可、同意を与えるプロセスです。群大病院は、医療の質・安全を高めるためにはインフォームド・コンセントが重要であると考え、さまざまな取り組みを行ってきました。

インフォームド・コンセントのガイドラインを改訂

インフォームド・コンセントの指針を作成、改訂し、①説明の場に看護師も同席する、②説明する項目(病状、治療法とその内容、成功率、危険性、他の選択肢など)を標準化する、③時間的に余裕を持って説明することとしました。医師の説明を後で聞き直すために、希望

すればイン
フォームド・

コンセントの録音ができる制度も作りました。検査や治療の内容や危険性について、不明な点があれば質問をしてください。患者参加型医療を進めるために、遠慮は不要です。

日本の大学病院で初のカルテ閲覧

欧米では、自分のカルテを読める病院が増えつつありますが、日本ではまだ進んでいません。カルテ情報を共有することは、医療安全にも、医療の連携にも役立つと期待されるので、群大病院でも、入院患者さんが自分のカルテを読み、検査、治療内容について理解を深めるための取り組みを進めています。

自らの健康、治療について知っておくことが大切

自らの健康に関して普段から興味を持ち、薬の種類、検査結果についての理解を深めてください。医師の説明をメモにとるのもよいでしょう。患者さんと医療者がいっしょになって共通のゴールである患者さんの健康状態の向上をめざし、医療の質と安全性を高めていきましょう。

も く じ



- 群大病院が目指す患者参加型医療 1 ページ
- 地域医療の向上に向けた取り組みを行う地域医療研究・教育センター ... 2 ページ
- 平成30年度 重粒子線がん治療施設見学会 3 ページ
- 第8回 外科手術手技講習会 3 ページ
- 大学病院と地域の多職種をつなぐ交流会 3 ページ
- 病院探検! 「ME サプライセンター」 4 ページ
- ボランティア懇談会を開催しました 4 ページ
- 医師事務作業補助者募集! 4 ページ

地域医療の向上に向けた取り組みを行う 地域医療研究・教育センター

群大病院の改革の三本柱の1つとして平成29年11月に設置されました「地域医療研究・教育センター」(<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>)



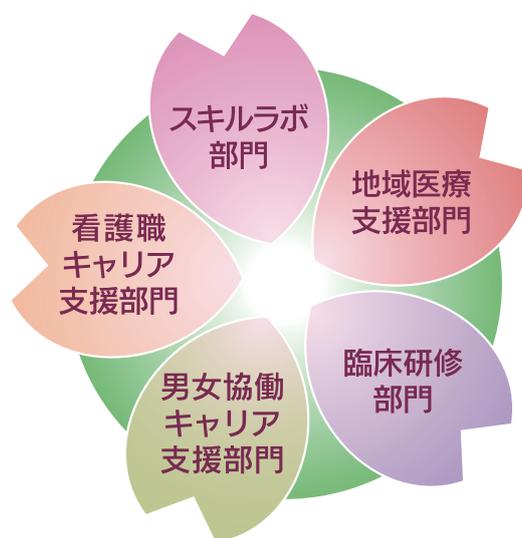
には、現在、地域医療支援部門、臨床研修部門（臨床研修センター）、スキルラボ部門、看護職キャリア支援部門、男女協働キャリア支援部門の計5部門があります（図）。

地域医療支援部門には、群馬大学の地域医療卒の学生と卒業生の支援を行っている「群馬県地域医療支援センター」と、医師をはじめとした医療スタッフの人材交流を推進する「ぐんま医療人ネットワーク」があります。

「ぐんま医療人ネットワーク」は、群馬県内の医療事情を調査して群馬県、医師会、病院協会、看護協会などの代表が集まる「ぐんま地域医療会議」に分析した結果を報告し、県内の医師の偏在を解消するための取り組みを行っています。平成30年8月には、「ぐんま医療人ネットワーク」に、医師個人あるいは病院などからの医師派遣に関する相談を受



村上センター長を中心に、今後の展望を話し合う部門担当者



群馬大学医学部附属病院 地域医療研究・教育センター

け付ける相談窓口 (<https://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/gin/contactform.html>) を開設しました。



臨床研修部門（臨床研修センター）は、医学部卒業後の医師の育成のための2年間の初期研修プログラムを提供して研修を支援するとともに、その後の専門医資格の取得など生涯研修の支援に取り組んでいます。

スキルラボ部門は、医師や看護師をはじめとする医療ス

タッフがシミュレーターなどを使ってさまざまな医療技術を安全に習得するための施設で、群大病院のスタッフだけでなく県内の他の医療機関のスタッフも使用でき、年間延べ1万人を超える利用者があります。

男女協働キャリア支援部門は、男女問わず充実したキャリアを目指す医療者を支援するための部門です。出産・育児後など個々のニーズに合わせた再教育プログラムである医師ワークライフ支援プログラムは、現在、男性医師も利用可能となっています。

看護職キャリア支援部門では、個々の看護師のレベルに合わせたきめ細かな研修や指導を行うなど、質の高い看護師の育成支援に取り組んでいます。

このほか、各部門の活動を支えるため、事務局が所属する管理部門があります。

このように「地域医療研究・教育センター」では、皆さまが安心して医療機関を受診できるよう、地域医療の向上に向けたさまざまな取り組みを行います。よろしくお願いいたします。

（地域医療研究・教育センター長）

平成30年度 重粒子線がん治療施設見学会

10月20日(土)に見学会を開催し、約1100名もの方にお越しいただきました！今回は電源室の初公開や研究・治療備品展示、研究紹介コーナーなども開設！説明会場も満席で大盛況！クイズラリーやノベルティグッズの配付もあり、笑顔溢れる見学会となりました。今後も地域の皆さんに楽しんで重粒子線治療を学びご理解いただける見学会を継続して参ります！今年秋の見学会もお楽しみに！「群大 重粒子」で検索を！



加速器室で重粒子ビーム生成の説明中



大人気！ぐんまちゃんとの記念撮影会場の様子



「こども実験教室」では2つの実験をご紹介します！



「研究紹介コーナー」ではパネル展示のほか質問にも対応

第8回 外科手術手技講習会



12月15日(土)、群大の学生と県内の初期研修医を対象に外科診療センターが主催した本講習会には、医学生37名、研修医30名の参加がありました。縫合、結紮などの外科医の基本的な手技のほか、シミュレーターを用いたエコー検査や腹腔鏡手術の手技を、県内の外科医の先生方に直接指導して頂きました。参加者からは「マンツーマンで教えてもらい大変良かった」「貴重な経験を積むことが出来た」などの感想をいただきました。今後も本講習会を通じて外科医の魅力を伝え、技術の向上はもちろん、県内で外科医になりたい医師を増やしていける活動を続けていきたいと考えています。



腹腔鏡手術シミュレーター



腸管吻合実習



腹部超音波シミュレーター

大学病院と地域の多職種をつなぐ交流会

看護部では、平成15年に訪問看護ステーションとの連携促進の目的で、群大病院看護師と訪問看護師の交流会を開始し、今年で16回目を迎えます。毎年テーマを決めて、講演会や事例検討を行い、顔の見える関係を築いてきました。最近、ケアマネジャー、社会福祉士、理学療法士等の参加もあり、患者さんが在宅で療養していくためのより良い連携の取り方などを多職種でディスカッションしています。地域包括ケアシステムの構築が進む中、大学病院と地域医療・介護を支えている多職種の方との連携がさらに重要となります。この機会を生かし、地域の多職種との交流をさらに深めていきたいと思ひます。



1月19日(土)に開催された交流会の様子

病院探検！「ME サプライセンター」



「医療機器の安全供給と使用を目指して！」



医療機器の安全な使用は私たちにお任せを！

MEとは「Medical Engineering」（医用工学）の略で、全体のまとめ役である医師の部長と副部長、滅菌材料部門の看護師2名、ME機器部門の臨床工学技士15名の計19名で構成されています。滅菌材料部門では、病棟、外来、手術等で使用した器材の洗浄・滅菌・保管までの一括管理を行い、院内各部署への安全な医療環境の提供と、滅菌された器材を安全に患者さんへ供給する役割を担っています。また、ME機器部門は、医療資格で唯一、医学知識の他に電気・電子工学の知識を持つ臨床工学技士の集団で、主に手術室・集中治療室等で医師の指示の下で医療機器を操作するほか、ME機器管理室において病棟で使用している人工呼吸器等の医療機器を定期的に点検しています。MEサプライセンターは、安全な医療機器を提供することで、治療に参加しています。

ボランティア懇談会を開催しました

12月12日(水)に、第38回ボランティア懇談会を開催し、病院長をはじめとする職員とボランティアの皆さん40名が参加しました。懇談会では、活発な意見交換が行われ、活動いただいた年間の時間数に応じて感謝状を贈呈しました。また、ボランティア活動員代表の秋山さんから、次のとおりコメントをいただきました。



懇談会で発言する秋山さん

「私の僅かな時間を提供することで大きな充実感をいただく事ができました。一日平均3時間の活動ですが、少しでも患者さんの助けになればと車椅子を押しております。当初は目的の診療科へお連れすることで精一杯でしたが、そのうちに速さや曲がり方など細やかに心配りできるようになり、自己を磨く事も出来るのだなと思いました。年2回の懇談会では、日頃の活動で気付いたことを話し合い、可能な事は取り入れていただいています。最近では、

大型車椅子の導入や整形外科待合室に車椅子専用スペースが設けられました。ボランティアは特別な資格は必要ありません。『人のためになりたい』『人を助けたい』という素直な意思があればできます。また、活動によって、仲間とのふれあいや、自分の行動がそのまま人の役に立つという達成感や自己発見など『与えられる』ものも多いと思います。ボランティア仲間とは和気あいあいと活動しておりますので、是非、自己発見と思い参加してくださいませようお待ちしております。」



ボランティア活動の様子

ボランティアさん募集

活動内容 案内と誘導、身体の不自由な人のお手伝い、車いすの介助 など

活動時間 平日午前8時半～午後5時の間の都合の良い時間、週1～2日程度

お問い合わせ・お申込み先 医事課 TEL 027-220-7827 FAX 027-220-7832

E-mail : volunteer-m@jimu.gunma-u.ac.jp



医師事務作業補助者募集！

医師の事務作業を補助(代行入力、診断書作成等)するパート職員を募集中！詳しくは教職員募集サイトへ！

<http://www.med.gunma-u.ac.jp/recruit/%E4%BA%8B%E5%8B%99%E8%A3%9C%E4%BD%90%E5%93%A1/5205.html>



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第6号 2019年2月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2019年2月15日

ホームページ ■ <http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。